

基本方針

- 科学的根拠に基づく最適な医療を安全に提供し、県民に信頼される「第一級の病院」として、本県医療の規範となる役割を果たす。
- 「地域医療支援の中心的機能」を果たすため、高度・専門・特殊医療、救急・急性期医療等、他の医療機関では対応困難な医療や不採算医療など、県の医療政策に対し積極的に取り組む。
- 教育研修をはじめ、臨床研究機能の充実強化、勤務環境を向上することにより魅力ある病院づくりに努め、優秀な人材の確保と育成及び県との協働による本県の医師確保対策に取り組む。
- 職員一人ひとりが医療の質の向上を目指し、先駆的な取組や業務の改革と改善に努め、その成果を情報発信し、県民や他の医療機関との共有を図る。また、全ての職員が職務について高い満足度を持って取り組むことのできる勤務環境の構築に努める。
- 県立総合病院のリサーチサポートセンターを活用して、臨床研究に取り組むほか、県が行う社会健康医学の研究推進に協力する。

沿革

- 昭和23年 6月 ● 静岡市追手町に県立中央病院開設
- 昭和31年 11月 ● 県立精神病院養心荘開設（現・県立こころの医療センター）
- 昭和33年 5月 ● 清水市に県立富士見病院開設
- 昭和52年 4月 ● 県立こども病院開設
- 昭和58年 2月 ● 県立中央病院及び県立富士見病院を統合、県立総合病院を開設
- 平成21年 4月 ● 地方独立行政法人静岡県立病院機構を設立し、
県立3病院の運営を同機構に移行
- 平成21年 4月 ● 第1期中期計画（5年間）
- 平成26年 4月 ● 第2期中期計画（5年間）
- 平成31年 4月 ● 第3期中期計画（5年間）
- 令和6年 4月 ● 第4期中期計画（5年間）

※明治2年駿府藩立駿府病院、のちの静岡藩立静岡病院、明治9年県立静岡病院が設置されていましたが、明治15年に県立病院を郡立（有渡・安倍郡）へ移管しております。

国際交流

- 平成19年 10月 ● 県立総合病院と浙江省人民医院が友好提携協定を締結
- 平成24年 12月 ● 県立病院機構と浙江省衛生健康委員会・浙江大学医学院が友好協力協定を締結
県立総合病院と浙江省人民医院が災害時相互医療協力協定を締結
- 平成29年 11月 ● 県立こども病院と浙江大学医学院附属兒童医院が友好協力協定を締結
- 平成30年 11月 ● 県立病院機構と浙江省衛生健康委員会が医療研究分野における友好交流協力協定を締結
県立総合病院と浙江大学医学院附属邵逸夫医院が医療研究分野における友好交流協力覚書を締結
県立総合病院と浙江大学医学院附属第四医院が医療研究分野における友好交流協力覚書を締結
- 令和元年 10月 ● 県立総合病院と浙江中医药大学附属第二医院が医療研究分野における友好交流協力覚書を締結
- 令和4年 11月 ● 県立病院機構と浙江省衛生健康委員会が医療研究分野における友好協定を締結
- 令和6年 4月 ● 県立総合病院と浙江省中医院が友好交流協力協定を締結（令和5年11月覚書を締結）

各病院のアクセス



静岡県立総合病院

- 〒420-8527 静岡市葵区北安東4-27-1
- TEL 054-247-6111(代表)
- FAX 054-247-6140
- http://www.shizuoka-pho.jp/sogo/

静岡県立こころの医療センター

- 〒420-0949 静岡市葵区与一4-1-1
- TEL 054-271-1135(代表)
- FAX 054-251-6584
- http://www.shizuoka-pho.jp/kokoro/

静岡県立こども病院

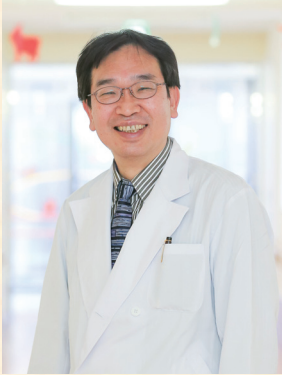
- 〒420-8660 静岡市葵区漆山860
- TEL 054-247-6251(代表)
- FAX 054-247-6259
- http://www.shizuoka-pho.jp/kodomo/

静岡県立病院機構本部

- 〒420-8527 静岡市葵区北安東4-27-1
- TEL 054-200-1610(代表) FAX 054-247-1021
- http://www.shizuoka-pho.jp/

ともにつくる 信頼と安心の医療

理事長挨拶



地方独立行政法人
静岡県立病院機構

理事長兼こども病院院長
坂本 喜三郎

地方独立行政法人静岡県立病院機構は、平成21年度の法人設立以降、県立総合病院、県立こころの医療センター、県立こども病院を運営し、高度・専門特殊医療、救急・急性期医療、精神医療等の分野において第一級の病院であること、人口減少を伴う少子高齢化で維持が難しい地域医療支援において中心的機能を果たすこと等々、“必要不可欠ながら、現行の医療・診療報酬制度下では民間で対応が難しい政策医療”を担い、効果的、効率的な病院運営に取り組んできました。また、教育・研究にも積極的に取り組んでおり、県内勤務医が働きながら研究できるように県立総合病院に臨床研究を推進する「リサーチサポートセンター」を備えた先端医学棟を開設するなど、静岡県の医学教育・研究環境推進にも寄与できる体制整備を進めています。

静岡県立病院機構の3病院は、法人設立以降それぞれがそれぞれの分野で第一級の役割を果たしながらゆっくりと連携を強めてきましたが、私はその連携をone teamとして明確に進めたいと考えています。3病院がone teamとして機能すれば、からだところ『人間まるごと』、生まれる前から高齢まで『生涯まるごと』、急性期から慢性期まで『医療まるごと』、全部まとめて第一級の医療を提供できるからです。

さらに、3病院は静岡県中央（静岡市市街地北部）の半径3km円内に位置し、新東名高速道路と第三の高速とも言われる国道一号バイパスに直結（結果として東名高速からもスムーズに接続）できる環境にあり、医療過疎が進む地域の高度医療が必要な患者に対応する広域受け手病院の役割を担えるのと同時に、医師派遣を含む地域医療支援においても重要な役割を担える稀有な条件を備えています。

静岡県立病院機構は、医療技術の進歩を的確に取り入れ、県政策医療の責任を負える第一級の病院群として、“更なる少子化の進展”と“更なる高齢化社会の進展とその後”と向き合いながら、2040年の静岡県医療が混乱しないように本県の医療の確保と質の向上に貢献して参ります。

静岡県立病院機構の存在意義

医療と医学で、人と社会の今と未来に貢献する

理念：到達目標

ともにつくる、信頼と安心の医療

実現すべき使命

- （1）患者に寄り添い、患者に信頼され、
患者が安心できる医療を、同時代をともに生きる人と社会に提供する
- （2）医療と医学の両輪で人と社会の未来に貢献できる第一級の病院、
それを支える機構であり続ける

先端医療

静岡県立総合病院

Shizuoka General Hospital

先端医学棟では、手術室22室を有し、最新の機器を配置してロボット手術やハイブリッド手術などを積極的に行っています。

がん医療については、主に泌尿器領域、婦人科領域、消化器領域でロボット支援手術も行っています。また、循環器疾患医療では、最新の治療器材と鮮明な画像診断を併用し、ステントグラフト治療やTAVI（経カテーテル大動脈弁治療）、経皮的僧帽弁接合不全修復術（Mitra Clip）など先進的な治療に加え、ロボット手術も行っています。



「三大疾患を中心に最先端・最高品質の救急・急性期医療」を提供します。

- ・先端医学棟を活用した高度・先進医療の提供
- ・循環器センターを活用した循環器疾患に対する専門的治療の実施
- ・がん疾患に対する集学的治療の実施
- ・重篤な救急患者に対する高度救命救急センターの運営
- ・リサーチサポートセンターを活用した研究体制の充実



■診療科

31科（内科/救急科/心療内科/精神科/循環器内科/心臓血管外科/心臓リハビリテーション科/腫瘍内科/腎臓内科/泌尿器科/糖尿病・内分泌内科/脳神経内科/脳神経外科/消化器内科/消化器外科/呼吸器内科/呼吸器外科/産婦人科/乳腺外科/小児科/整形外科/リハビリテーション科/眼科/頭頸部・耳鼻いんこう科/血液内科/皮膚科/形成外科/歯科口腔外科/麻酔科/放射線科/病理診断科）

■病床数

718床（一般662床、結核50床、精神6床）

※集学的治療：手術、化学療法、放射線治療を効果的に組み合わせた治療法

静岡県立こころの医療センター

Shizuoka Psychiatric Medical Center

重症患者に対する先端薬物療法（クロザピン）や高度な治療法である修正型電気けいれん療法（m-ECT）など、先進的治療を提供しています。

また、医療観察法等の司法精神医療や地域への早期移行を目指した包括的な在宅医療支援を実施しているほか、被災地にDPAT（災害派遣精神医療チーム）を派遣するなど精神保健医療活動にも積極的に取り組んでおり、静岡県では初となる災害拠点精神科病院の指定も受けます。



「日本最先端の精神科救急・急性期医療」を提供します。

- ・24時間体制の精神科救急・急性期医療
- ・重症精神疾患患者への先進的医療
- ・包括的な在宅医療支援体制の構築
- ・司法精神科医療への積極的取組



■診療科

4科（精神科/内科/外科/歯科）

■病床数

274床

静岡県立こども病院

Shizuoka Children's Hospital

昭和52年の開院以来、静岡県の地域医療、小児医療に貢献するべく、高度かつ先進的な医療を実践しています。胎児から思春期まで、慢性難治性疾患から救命救急医療まで、こころの医療から体の医療まで、すべてのこどもの疾患に対応可能な医療施設として、質の高い医療を県民の皆様提供しています。特に、循環器、周産期、小児がんについては日本をリードする医療を行っています。



身体からこころまで、出生前から思春期まで切れ目ない「小児専門医療」を提供します。

- ・小児重症心疾患患者への高度先進医療
- ・重篤な小児救急患者への救命救急医療
- ・ハイリスク胎児・妊婦への先進的医療
- ・小児がんに対する集学的治療
- ・児童精神医療の中核機関としての治療の充実



■診療科

29科（小児救急科/新生児小児科/血液・腫瘍内科/小児科/内分泌・代謝内科/腎臓内科/アレルギー科/神経内科/循環器内科/皮膚科/放射線科/臨床検査科/小児外科/消化器外科/呼吸器外科/心臓血管外科/脳神経外科/整形外科/形成外科/眼科/耳鼻いんこう科/泌尿器科/産科/歯科/麻酔科/病理診断科/精神科/児童精神科/リハビリテーション科）

■病床数

279床（一般243床、精神36床）

研究

総合病院に設置した先端医学棟の5階に臨床研究を推進する「リサーチサポートセンター」を整備し、病院に勤務する医師が診療しながら研究が続けられる環境を整備し、従来の臨床研究に加え、医療ビッグデータの解析研究、効果的な健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究、ゲノムコホート研究などの研究に取り組んでいます。



平成31年3月には、総合病院診療部門の全ての部署において、文部科学省科学研究費助成事業研究機関の指定を受けています。

他施設との共同研究や国際交流にも積極的に取り組み、慶應義塾大学医学部・大学院医学研究科と連携協力に関する協定を締結しているほか、中国浙江省衛生健康委員会をはじめ、令和5年11月には浙江省中委員との友好交流協力覚書を締結するなど医療研究分野で浙江省の各大学付属病院と数多くの協定を締結しています。



また、同センター内に設置した「きこえことばのセンター」では、脳の発達と聴覚に関する研究を行っており、高齢者の聴覚障害と認知症の予防に関わるテーマや先天性難聴児の人工内耳装用による言語発達を促す訓練方法に関する研究などが進められており、令和3年10月には、NTTコミュニケーション化学基礎研究所と共同研究協定を締結しています。